

## 霜 月

11月に入りました。ついこの前まで半袖で過ごしていたのに、あっという間に季節が移っていった気がします。しかし本格的な寒さはまだまだ先です。季節の変わり目、体調管理には気をつけて過ごすようにしましょう。

ところで今月はクラスでの取組みが沢山あります。まずは2週に渡ってのスポーツレク(クラス対抗戦)――

第1週目の11月4日は大縄跳び&綱引き。大縄跳びは体育大会のリベンジです!果たして体育大会の優勝記録7回を何クラスが超えられるのでしょうか!また二桁の記録を何クラスが達成できるのか?願わくば全クラスが超えてほしいと思います。

第2週目の11月11日はドッジボールです。初めての球技によるクラス対抗戦!球技で見事優勝を勝ち取るのは何組か!たかがドッジボール、されどドッジボール。ルールをよく理解し、作戦勝ちするクラスは現れるのか?楽しみながら競技を競い合ってください!



また11月25日には年次企画として合唱コンクールを行います。これはホームルーム委員を中心に、出来るだけ生徒による手作りのイベントにしたいと思っています。現在、楽曲の選定や指揮者、伴奏者の選出をしている段階です。ホームルームの時間を利用しての取り組みですから、本番はあっという間に終わってしまうでしょう。だからこそクラスの親睦を深めながら力を出し合って、素晴らしいハーモニーを聞かせてほしいと思います。出来れば最優秀賞を目指してほしいと思いますが、順位に関わらず一つの曲をクラスみんなで楽しみながら一生懸命歌えれば、1年のいい思い出にできるのではないかと思います。



霜月、文字通り霜が降りる寒い時節。昨今の温暖化で霜が降りるのはまだ先のことでしょうか。それはともかく…ひとりひとりが少しずつクラスのみんなに合わせる気持ちを持ち、温かくなれるクラスを作ってもらいたい、そんな思いでこれらの学年行事を企画しました。気がつけば1年のクラスで過ごすのもあと5ヶ月…1年次の半分を終え、やがては新しいクラスに変わっていきます。限られた時間の中で素晴らしいクラスを作りたいと思います。



11期生諸君をサポートしている我々学年団は同じ目標を持った一つのチームだと考えています。一つのチームの中には全力投球で立ち向かうピッチャーもいれば、目立たないところでエラーが起きたときのために必死でバックアップに走る捕手や野手もいます。ここぞというところでホームランを打ってくれる4番打者も、送りバント専門のバッターもいます。それぞれが違う役割で、でもチームの勝利のために黙々と仕事をします。そう、11期生諸君がそれぞれの夢の実現に向け、歩みを進めてくれるという共通の目標のために。

学年団の女性の先生から最近の11期生の女子の制服の着こなしを憂い、何とかしたいという思いから、以下のような原稿を寄せていただきました。一時に比べるとスカートを短く折って履く人は少なくは、なったように思います。でもその影でこんな思いで諸君のことを心配して注意してくれている先生もいるのです。これからも気が付いたら、勿論その都度注意はしていきます。でも注意されたから正すだけでなく、こんな思いで心配してくれる先生もいることを知り、あなた方自身が内面から変わってくれる事を期待しています。



## スカート丈から伝わること

最近、一年生女子のスカート丈が短いな、と感じることが多くなった。声をかけてみると、案の定、ウエストの所で折り込んでいる。普段、学校生活で物事をきちんとこなし、感じもよい女子が、本当に何気なくスカートを短くしている。何度となく服装について注意されているのに、これはいったいどういうわけか。

お年頃の娘達にとって、ファッションへのこだわりはとっても重要。

「ミニスカートの方が、バランスよく見えて、かわいいから」そんなところだろう。

私もスカートを選ぶ時、スカート丈チェックは必須。女性ですもの、少しでもキレイに見えるようにしたいもの。(ただしわたしのスカート丈必須条件は、ひざ下であることですが。)

私自身の考えとしては、女性が自分をより美しく見せたいと願い、「私らしいファッション」にこだわることは、決して否定しない。でも、制服のスカート丈は、規定どおりの「膝にかかる程度」である必要があると思う。なぜなら、制服が持つ意味、伝えるものは、「個人発信のメッセージ」ではなく、「学校発信のメッセージ」だと考えるからである。

では、制服から、どんなメッセージが伝わるのか。そのメッセージの意味合いを、

「スカート丈そのものが伝えるメッセージ」と、「そのスカート丈で着こなす個人から伝わるメッセージ」の二点から考えてみよう。

## 「スカート丈そのものが伝えるメッセージ」

そもそも、なぜスカート丈は、「膝にかかる程度」だと規定されているのか。みんなの望むように、「膝上五センチ」などと規定されていれば、先生に注意されることもない。しかし、全国の数ある高校の制服規定で、「膝上」を求めるところはまず無いだろう。そんな学校があれば、逆に「何を求めているの?!」と勘ぐってしまう。つまり、スカート丈というのは、世間一般の感覚で、これぐらいなら誰がみても、「イヤラシくない」「感じがよい」設定でなされている。制服のスカート丈は、「我が校は、一般的良識に基づいた行動を推奨する、信頼に足る集団です」という学校発信メッセージを伝えていると言える。

これは逆に言えば、短いスカート丈が、「イヤラシイ」「感じがわるい」という感情を引き出してしまうということ。そんな感情が、本校の女子にどんな影響をもたらすか。危険にさらされたり、地域の学校の生徒として、決していい印象は持たれない。

## 「そのスカート丈で着こなす個人から伝わるメッセージ」

規定で決まっているスカート丈を、自分の好きな丈で着てしまう意識は、「赤信号は止まれ」だけど「車通りが少ないから横断歩道を渡ってしまう意識」に似ている。「今車通っていないんだし、誰にも迷惑かけてないでしょ」＝「スカート丈は私一人の問題。誰にも迷惑かけてない」しかし実際には、制服とは個人を表現するものでなく、学校を表現するもの。「その個人」が「赤信号を渡っても平気」な様子を見せることは、「その学校」が「赤信号を渡っても平気な人々の集まり」と見なされてしまうのである。赤信号を渡る個人が増えたら、そのメッセージ性はますます強まる。「ルールは破っちゃっても平気な学校よ～」とアピールして歩いているようなものだ。

思い出してみしてほしい。みんなはなぜこの伊丹北高校を、進学先に選んだのか。みんなの保護者の方々は、なぜ北高受験を勧めたのか。事情はさまざまあるだろうが、この北高が、「挨拶の多い」「落ちついて勉強できる」「秩序と平和の保たれた」「安心して学校生活を送れる」評判の良い学校として選ばれたのではなかったか。この北高のイメージは、昨日今日で作られたものではない。制服を規定通りに着こなして、「ルールやマナーを重んじる秩序ある平和な学校ですよ」と、メッセージを送り続けてくれた、心あるみんなの先輩方の、努力の賜なのである。そんな秩序と平和を保ってくれた先輩方の努力を、悪気ないつもりでスカート丈で壊してしまっていていいですか？

明るく平和な環境は、みんなが協力して作り上げるもの。みんなの意識で学校も変わる。だからこそ、スカート丈の意味をもう一度考えてみてほしい。

38回生女子よ、立ち上がれ！スカート丈は標準であるべし！！



11月の予定

日	曜	行事(学校・生徒)	保護者関連	備考
1	月	大緑化作業		
2	火			
3	水	文化の日		
4	木	スポーツレク ① (6限)		
5	金			
6	土			
7	日			
8	月			
9	火	教育相談(スクールカウンセリング)		
10	水			
11	木	スポーツレク ② (6限)		総合学科全国大会
12	金			総合学科全国大会
13	土	学校説明会		
14	日			
15	月			
16	火			
17	水			
18	木			
19	金			
20	土			
21	日			
22	月			
23	火			
24	水		進路校外全体発表会 参観	出欠締め切り
25	木	合唱コンクール (6限)		
26	金			
27	土			
28	日			
29	月			
30	火	進路校外学習全体発表会		